

オットセイの習性の理解と ふれあいのアドバイス



かつて絶滅近くまで狩猟された南極のオットセイ(オットセイ科ガジラ)は劇的にその数を取り戻し、その数は世界中で 500 万頭を超え、そのうち 95% 以上がサウスジョージアを繁殖の場所として使用しています。オットセイは陸上でも水中でも上手に移動し、繁殖期には非常に攻撃的になることがあります(11 月～1 月)。夏の終わり(2 月～4 月)に母親と子供が海岸から草むらに移動し、しばしば驚くほどの距離を内陸に移動します。人間の観光客に驚くと攻撃的な反応を示しがちです。

ツアーを計画する際には、海岸に上陸しているオットセイの習性と数を考慮してください。

小型ボートでオットセイのいる上陸地点に近づく際は、乗客とオットセイの両方の安全を守るため、特に注意を払ってください。オットセイは個体ごとに異なるため、それを理解した上でオットセイとふれあう必要があります。以下の情報は現地のスタッフと乗客がオットセイとふれあう際に最も適切な選択ができるように現地のスタッフとオットセイ生物学者から集められました。

オペレーターは、海岸に上陸しているオットセイに与える影響を最小限かつ一時的なものに止めるようにしてください。

一般的なオットセイの習性の理解:

- オットセイはもろいまたは滑りやすい地形で人間よりかなり早く移動することができます。
- オットセイは陸上で非常に速く移動することができますが、速く停止することができません。オットセイから一定の距離を開けてください。
- オットセイが他の動物や人間の存在に対する警告の行動に注意します。このような行動だけに限定されません。
 - 警戒の増加
 - 頭を回転させる
 - 横たわっている状態から直立の姿勢に変わる
 - 他のオットセイの「テリトリー」や訪問者に向かって移動することを含むあらゆる方向への素早い移動
 - 口を開けた威嚇行動、荒い鼻息、クンクンという鳴き声
 - 攻撃的行動または偽の突撃
- 上記の行動が見られた場合、特に注意しながらゆっくりと後退します。
- オスは通常、防御する際に警告を出しますが、メスや子供は先に噛みつき、逃げ出す傾向があります。
- 母親が摂食する際、子供たちが放置されることがよくあります。子供が1頭でいても、捨てられたわけではありません。



繁殖期のオットセイの習性の理解:

- 繁殖期(11月～1月)にオットセイは人間の存在や匂いに特に敏感です。ハーレム近くの人間の存在はオス、メスいずれかからの非常に攻撃的な反応の原因となる可能性があります。
- 繁殖期中、オスはメスよりも先に海岸に到着し、テリトリーを準備します。テリトリーは通常5平方メートルほどで、特にメスが上陸し、出産を迎える時には力づくで防御しようとします。
- オットセイは自分のテリトリーの境界線を知っていますが、人間の訪問客はこの境界線を簡単に見分けることができません。上陸した際には常にこのテリトリーの境界線を超える危険性があります。オットセイの集団の周りでは可能な限り注意する必要があります。
- 動揺したオットセイは他のテリトリーに移動したり、ハーレムをかき乱したり、オットセイ間のけんかの原因となったり、自分や他のオットセイ、特に子供を傷つける危険性があります。この行動はオットセイに始まり、休んでいるペンギンや他の野生の動物を動揺させるというドミノ倒しの原因となる可能性があります。
- 繁殖期中に海岸を散歩する時は、ハーレムからより離れる必要があります。一頭のオットセイはそれほど距離は必要ありませんが、状況は変わる可能性があり、状況により、判断する必要があります。
- 可能な限りハーレムに近づいて驚かせたり取り囲んだりしないでください。ハーレムとは、1頭のオスが支配する複数のメスとその子供(いない場合もあります)のグループです。
- ハイシーズンの混雑した繁殖が行われている海岸では多数のオットセイや強いテリトリーの防御のため、上陸することができない可能性があります。ゾディアッククルーズは多くの場合オットセイと訪問者を同等に守る好ましい選択肢です。



陸上でのオットセイの見学：

- **リーダーの指示に従います。リーダーは、あなたに安全かつ最高の経験をしてもらうことを願っています。**
- 陸上でもボートからでもオットセイを脅かす可能性のある突然の動きをしたり、凝視しないでください。
- 常に静かにゆっくりと行動してください。
- こちらに向かってくるオットセイに背を向けしないでください。
- 海岸ではオットセイの間に入らず、オットセイよりも内陸側を歩いてください。
- オットセイが陸上ですばやく移動できること、また近づきすぎると攻撃してくること（噛みつくこともあります）に注意してください。突撃してきたオットセイから逃げる必要がある場合に備え、「逃げ道」を確保してください。
- 多数のオットセイの近くを移動する際にはグループでできるだけ静かに素早く行動します。
- 大人のオットセイ、特にオスの近くで横たわらないでください。
- 個体が急いで海に向かっている時はゆっくりと注意深く後退してください。
- オットセイの子供は多くの場合、非常に好奇心が強く、人に近づいてくる可能性があります。オットセイの子供を触ったり、注意を引いたりしないでください。たとえ小さくても、けがをさせられることがあります。
- 動揺したオスのオットセイからは十分に距離をおいてください。
- 草むらにいる動物に注意します。オットセイから距離を保つため、フィールドガイドは杖または同等のものを使用します。
- オットセイに石を投げたり、杖やポールでたたいたりしてはいけません。
- オットセイと訪問者がお互いに見ることができない草むらのエリアでは、必要以上に静かにせず、通常の物音をたてながら進むとよいでしょう。これにより、動物は人間の存在に警戒し、出会いがしらに遭遇して攻撃的な反応をするのを防ぐことができます。
- オットセイの口にはすぐに感染する恐れのある有害な菌があります。オットセイに噛まれた場合には、たとえ傷が浅くても、ただちに医療専門家の検査を受けてください。傷口を洗浄し、経過を観察する必要があります。小さな傷でも感染の原因となる可能性があります。



子供のオットセイ

写真：Brent Stephenson



オットセイの繁殖期の海岸

写真：Troels Jacobsen